

New N o g a t a

2022、10、18

## 直方ミニバスケットボールクラブだより

### 共育コラム

互いの弱さを知り、カバーし合ってともに伸びていく集団

～個々のよさを生かしバランスのとれた成長を促す～

ここのところ、感染状況も減少傾向を示し始め、地域行事、学校行事、などさまざまな行事が実施されるようになってきています。地域行事では、花火大会やお祭りが開催されました。学校行事では、運動会や修学旅行、自然教室などが実施されています。子どもたちにとっては、これまでできなかった活動ができるようになり、楽しい場面になっていることが見受けられます。

一方で、多少気持ちもゆるみがちになり、緊張感に欠ける場面も見受けられます。これまでできなかった子どもにとっての大切な取り組みが実施されるようになったことは喜ぶながらも、子どもの気もちのバランス（調整）をはかっていかなければならないことを感じています。せっかくの楽しみにしていた活動で、失敗を導き出してしまい、苦い経験になってしまうこともあります。もちろん仮にその苦い経験があっても、子どもにとっての貴重な学びに変えていかなければなりません…。

### 子どもの貴重な学びを支える

子どもは、子ども時代に、子どもの世界で、多様な関係性を育みながら成長します。学校でも、クラブでも、他のさまざまな場面でも、いろいろなちがいをもちた多様な子どもたちが、同じ場を共有して活動しています。子どもレベルの仲のよさのなかには、けんかやトラブルを含んでいることは少なくありません。それが子ども時代であり、子どもの世界です。可能な限りおとなの介入を避けたい時間、空間だと思えます。ときにぶつかり、ときになやみ、ときに認め合い、ときに喜びをともにしながら、多様な関係を育んでいきます。

子どもの強みは、潜在的に「認め合う力」「許し合う力」をもっていることです。おとなからすると理にかなわないことでも、子どもは、子どもなりの理屈と関係性（やさしさ）で、いろいろあっても受け入れていく力をもっています。

ただ、そうなるためには、何か事が起きたときに、互いの気持ちをていねいに聴き取り、気持ちを受けとめ、課題を整理してあげる、適切な対応が必要です。そして、それは、学校のことなら担任の先生、クラブのことなら監督、家庭のことなら保護者を基本とします。それではうまくいかないときは、客観的な立場で適切に対応してもらえる人に相談することが必要です。当事者どうしでは、それぞれの主張がぶつかるだけで折り合いをつけにくいことが多いです。

このような適切な対応ができれば、多少時間を要することもあっても、子どもたちは壁をのり越えていくことができます。そして、このプロセスは、おとな（社会人）になるために経験しておきたい大切な学びの一つです。

### **互いの弱さを知りカバーし合って伸びていく集団**

日々子どもたちの活動のようすを見ながら、気になることや気づかせたいことを活動の合間に話すことがあります。最近のことでいうと、集団（クラブ、チーム、学級など）には、「互いの弱さを刺激し合ってダメになっていく集団」と「互いの弱さを知りカバーし合って伸びていく集団」がある、という話をしています。

人はみんな、強いところ（得意なこと、よさなど）と弱いところ（苦手なこと、よくないところなど）がある。それは、子どもだけではない、おとなだって同じ。一つの集団に、それぞれちがった強さと弱さをもったいろいろなメンバーが集まり、活動をともにし、一つの目標あるいはそれぞれの目標達成に向けて励んでいる。

ダメになる集団は、互いの「弱さ」を知り合うことなく、自分の感覚（当たり前）だけで行動してしまう。そのことでメンバーの「弱い」部分を刺激して引き出してしまうことがある。

伸びる集団は、互いの「弱さ」を知り合い、できるだけ「弱さ」が出ないようにカバーし合い、その人の「よさ」が引き出されるようにかかわったり対応したりすることができる。

さらに、子どもたちに言います。

弱さは誰にでもある。おとなにだって、先生たちにだってある。大事なことは、自分の弱さを知り、自分だけではうまくいかないところは、自分から尋ねたり、教えてもらったり、助けを求めたりできること。そういうなかまや人との関係をつくること。そして、自分のことを知ってもらうと同時に、メンバー一人ひとりのこともよく知り、わかってあげること。わかってあげていれば、アドバイスもできるし、助けてあげることもできる。

日々、コーチとともに、子どもたちの活動をサポートしていますが、私たちが気づけて

いないこともあります。何か気になることがありましたら、早めにご相談ください。どうすることが適切か、いっしょに考えて対応していきます。

